

町の教育への理解に支えられ、時代に沿った  
「つけるべき力」として「てれたっち」を全教室に導入。

三重県朝日小学校では、すべての教室に1台ずつ大画面液晶テレビが備え付けられている環境を活かし、平成29年度から特別教室を含め全教室に「てれたっち」が導入されています。児童が画面にタッチして、クラスの仲間に考えを発表する。そんな積極性あふれる授業の様子をはじめ、導入への想いとその効果、今後の展望についてお話を伺ってきました。



導入商品

てれたっち  
DA-TOUCH/WB

※ディスプレイは別売りです。

## 既存の液晶テレビを活用して、低コストで電子黒板化できるから、全教室への導入が実現。

**荻田先生**：本校は若い職員が多く、ICTに取り組みやすい。落ち着いた学習環境も整っていますが、大画面液晶テレビを使って目から入る情報というのはさらに効果的だと考え、教育委員会と相談しながら導入しました。何十も小学校のある大きな市となかなか整備が追いつかないですが、特別教室を含め全教室に設置ができたのは、朝日町ならではですね。

**橋本先生**：朝日町の教育長は常々、「時代の流れに沿った、子どもにつけるべき力」と申しています。町全体にその方針の理解があってこそ、この環境が実現したと思います。朝日町の中学校にも、全教室導入されています。導入してから2週間以内に、議員の方々に授業参観していただきました。こちらはドキドキでしたが（笑）、「ほんとにいいね」と感想をいただきました。もともと児童たちが持っているポテンシャルもありますが、一生懸命学びに向かっている姿は本物だと思います。



## 児童が、自分の考えをクラスの仲間に伝えるツールに。

**橋本先生**：ICTは先生にとっては授業をより深いものにし、児童にとっては自分の考えを仲間に発表できるツールだと思うんです。人前で自分の思いを伝えることや、順序立てて伝えることを苦手とする児童は多いですから。

**荻田先生**：「てれたっち」を導入してから、授業への反応が全然違いますね。みんなが発表した考え方や想いについて隣の子や班の子と一緒に考えたりして、お互いに考えを深めあったり、学び合ったりする姿勢が高まっていると思います。

**池村先生**：授業への姿勢や積極性が変わりましたね。やはり資料を見せて、みんなで共有できるのがメリットだと思います。資料の中の文章の一部を隠すだけで、クイズ形式で発問できる教材になりますし。児童たちから口々に答えが返ってきます。その答えを画面上に書き込んでいくことで、参加意欲も集中力もさらに高まります。

**林先生**：映したものを見せるだけなら、こちらからの発信ばかりです。でも書けることになったので、児童たちが参加でき、自然と顔が上がるんですね。双方向で授業が進むのが大きいです。また、今まではマウスでしか操作できませんでしたが、タッチペンなら低学年の子でも簡単に操作できます。

## 印刷も不要になるから、先生の負担を軽減。その分より授業を深いものにできる。

**林先生**：今日のような授業を紙でやろうと思えば、天秤やおもりの絵を描いた教材をつくるしかない。紙だとかさばりますが、これならCD-ROM1枚で済みます。

**池村先生**：資料を印刷するなどの手間が減るぶん教材を深め、より興味深いものにすることができます。デジタルデータなので、紙と違ってゴミも出ませんし。

**荻田先生**：職員にも得手不得手はありますが、全員がICTを活用してより効果的な指導ができるようになる。それが我々に求められていることですし、補い合ってもらえていると思います。

**橋本先生**：来年度、Wi-Fiを普通教室でも整備する予定です。今後はタブレットとの連携なども考えていて、先生が教材を提示するためだけでなく、子どもたちが主体となって使う道具として活用し尽くしていただきたい、そう願っています。

橋本 憲幸先生  
朝日町教育委員会  
教育課 係長 兼 指導主事荻田 直樹先生  
教頭林 政男先生  
3年生担任池村 和真先生  
6年生担任